

オマーン国ネジド地方農業開発計画調査（フェーズII、ワークIII）

（調査期間：1995年4月～5.5ヵ月、担当業務：栽培）

調査背景

オマーンは化石資源探査の過程で南部オマーンのネジド地方の地下に膨大な地下水の存在が判明した。この地下水を利用した農業開発の可能性を検討するため、日本政府に調査協力が要請された。日本国政府は1988/89年から「ネジド地方農業開発計画調査」（フェーズI）を実施し、パイロットファームの建設計画を案として取り込んだ。その後、オマーン政府は同ファーム（ネジド農業試験場（Nejid Agricultural Research Station, NARSと改名））を建設したが、NARSでの長期モニタリングへの協力、及び4）農業開発の方向性の検討と提示の調査を日本政府に要請した。この調査では、NARSでのモニタリング調査の結果と新たな情報に加え、ネジド地方の農業開発に向けたガイドラインを作成することを目的としている。

調査概要

本調査は総括、栽培I、栽培II、土壌の4人の専門家で構成された調査団によって調査が行われた。調査では、ネジド農業試験場で、牧草（ローズグラス）栽培管理、土壌調査、地下水モニタリング、気象調査、水利用について継続調査が行われた。これらの情報に基づきネジド地方の農業開発計画及びネジド農業試験場の将来計画について提案がなされた。

担当事項

- ローズグラス試験栽培の実施と栽培技術及び調査手法の技術移転。
- 試験栽培結果に基づいた、栽培適性管理計画、試験栽培計画の提案。
- ネジド地方の農業開発に向けたガイドライン策定。

